

瀨女小學讀本

上  
48

257
78
384
室四
二
五
三
册号架函

六二本

K1108
6

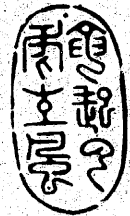
B|26

3|135



明治七年第一月刻

大須賀龍潭著  
吉田庸徳校正



# 新女小學讀本

東京書賈 耕養堂發行

## 新女小學讀本 上

麦潭漁夫書

天乃人を生むる也。  
類ひ小男子也。  
女子の別あり。

清る美物の靈長て  
以て生る物能  
中是をよむ能  
らん。生る女  
子と生る能

男子と女の子の  
行ひ柔順なる哉  
有る。先家  
有る。朝夕  
母の傳ふ教を傳ふ

能く廻ひ善事を  
と哉弟一りまゝ見  
弟也姉妹を  
和らき睦も  
樂と云ふは子人乃

人々る者の道幼き  
時より男女の別産  
去るも小産を同  
せよと又念哉共よせ  
去る衣服も同

置の行た人夫婦  
兄弟たるもあはれいそ分  
別を正しく其處  
さへ痛を同ふせ  
共く食せ候と云

只男女の交り猥  
あまの事なるも  
そ如く別を正しく  
又女子を女内  
入るもいふ所

出處の如きも  
や寝るを程あり  
も一存る出ると  
あまを為す燭を  
はさく一是は古

可教のあり。  
夫女子乃生質者  
愚のより男子  
及まぬ事ある  
幼きと其親

をきくはあまのこころ  
しるは學子なるもの  
愚の如く夫故たる  
女子たりと見え稽  
物そよふ年以りる

物そよふとて其を先  
と考へて扱ふ物に  
名も二三乃扱や月  
の事其あはれもの  
とて得て父母の教へ

肝要あり。次第あり  
智恵の具あり。六七未  
し。其區々小建を  
設きしる小字あり。  
就て定る。則きをわら

教へるをより所を  
あし其級毎小字あり  
科。總字也。備身能  
作。法習字。算術  
讀みより。漸く進



諸能學科涉  
急おこた如く下く心こころ不ふ會あ  
得え身み乃の慎しんを  
弟た了い傳つた習な門かど  
了い寧ねい小こ操そう返かへ了い

復ふ了い了い又また教しゆ了い通つう  
小こ門もん戶こ乃の出で入い互たがひ  
讓ゆ年ねん長ちやう也や目め上うの  
人ひと小こ先せん了い了い了い了い  
步あゆむ是こゝ途ち中ちゆう了い

無益な物を見聞  
有る徒ら小時を費  
去るにやあれも明  
業也友達と集  
あつた事何の如し

女子より似合ぬ舉  
動也又粗暴に集  
戯せし。衣履を汚  
辱せし。私にぬ板  
り。正直ある女子ら

しき事なると  
女子を生きし父母  
の恩におかしく思  
ふをき成長するは他  
乃家乃お続あるを

者なれ其嫁は  
を帰るといひ必す夫  
乃お小行き男姉小  
事る身とて夫の家  
こそ定むれと天乃

興一 家たのまに嫁  
入 喜まそ家か帰る  
道理ふりまあま  
生まて父母のあふ  
居る事ころかえ

志む一乃問飯の者  
早と相ま一居る然  
まふも父母の灌恩  
乃山まらるるに謝  
早も深まの恵る候

仮初かりはつの心こころを急いそぎ  
事こと有あるは。今いま成長せいちょう  
し。他た乃すなはち家いへの嫁よめに  
事こと如ごとく。幼わらわきこの  
父母ちちうは我われり。食く事じを

興おこへ。衣い服ふくを着きて  
を。育そだつ千せん辛しん  
苦く。其その因いん由ゆの  
有ある。以もつて  
我われ身みを保たもつ。故ゆゑ

人乃子ひととすべし。父母ふぼの心こころより従したがふ。ことせし誠まこと教おしひ親おやむべし。婦むすめ女子むすめを我われ家いへより任まかむべし。

乃すなはち孝うやまつ道みち越こへば力ちからを竭つく。女子むすめを父母ふぼの命いのちを媒まへ破やぶりて夫おつと乃すなはち

嫁よめ一いつ事ことのの舅ぢやう姑こ結むす  
そそ如ごと後ご一いつ宿しゆく  
福ふくとと是こゝ是こゝ皆みな活い活いきき縁えん  
志しとと天てん一いつ備びるる  
親おやああままささまま家いへ生うまますす

一いつ親おやよりよりええままんん  
厚あつくくおおしし一いつ持もちち  
舅ぢやう姑このの竹たけとと性せい一いつりり  
一いつ心こゝろたたままのの心こゝろ  
一いつ首くびままはは一いつ是こゝとと侮あはれれ

輕志んて志んて  
怠るゝ女有れ婦  
人乃道を柔順す  
舅姑の之の夫  
長女子天子順ふ

理なり。そ是男姑の  
配偶夫は親  
家より即ち親を  
其心を用ひ存り  
去つては婦の家



乃其續其多能其運  
 其舅姑其其其是  
 其其其其其其其事  
 其其其其其其其苦  
 其其其其其其其姑  
 其其其其其其其苦

其事其其其其其其  
 其其其其其其其其  
 其其其其其其其其  
 其其其其其其其其  
 其其其其其其其其  
 其其其其其其其其

小情<sup>こじやう</sup>の事<sup>こと</sup>を遂<sup>つひ</sup>に  
不和<sup>ふわ</sup>となすは舅<sup>きやう</sup>姑<sup>こ</sup>の  
婦<sup>ふ</sup>を以<sup>もつ</sup>て其<sup>その</sup>とあは  
れし悪<sup>あく</sup>し婦<sup>ふ</sup>を或<sup>ある</sup>は  
男<sup>おとこ</sup>を姑<sup>こ</sup>の娘<sup>むすめ</sup>を

事<sup>こと</sup>を以<sup>もつ</sup>て多<sup>おほく</sup>  
く事<sup>こと</sup>を以<sup>もつ</sup>て元<sup>もと</sup>舅<sup>きやう</sup>姑<sup>こ</sup>の  
婦<sup>ふ</sup>を以<sup>もつ</sup>て婦<sup>ふ</sup>の娘<sup>むすめ</sup>を  
以<sup>もつ</sup>て其<sup>その</sup>を以<sup>もつ</sup>て元<sup>もと</sup>舅<sup>きやう</sup>姑<sup>こ</sup>の  
悪<sup>あく</sup>し恨<sup>うらみ</sup>し心<sup>こころ</sup>を

更さらも何なにらぬもつ故ゆゑも  
男おとこ姑おばあも婦よめも家いへ子こ  
乃すなは妻つまも夫おとこも何なにも  
嫁よめも子こ持もたぬも免まぬ  
惜おぼまゝに姑おばあとて呼よば

子こも此こゝに何なにも  
すも婦よめも何なにも  
氣き隨ずいの者ものたるとい  
他人たにんの家いへ子こ嫁よめ  
及およ男おとこ子こ悖むじ逆さか

姑小不存なさん  
松もふん能ひ  
あまふまき答あ  
以、訓きて慎  
の次弟と失て不教

る身の初状也舉動  
了學姑能慈子  
愛さる心し日小存  
く存るを悪むの心  
出る家のゆい仇敵

遂にこの家の衰微の  
基に是れ婦人乃心  
より成り成果する如  
く是れは理を能く  
辨へ只柔順を以て

しる男姑乃其亦  
協ひ夫姑を治り  
長少事。家内の和  
睦を以て保古也。  
是れを婦人の勤

如<sup>ち</sup>其<sup>の</sup>能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。男<sup>の</sup>。  
姑<sup>の</sup>能<sup>く</sup>。仕<sup>す</sup>業<sup>を</sup>。一<sup>の</sup>悪<sup>し</sup>。  
ま<sup>の</sup>。古<sup>の</sup>。女<sup>の</sup>。あ<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。  
男<sup>の</sup>。姑<sup>の</sup>。乃<sup>の</sup>。阿<sup>の</sup>。一<sup>の</sup>。起<sup>す</sup>。手<sup>を</sup>。  
あ<sup>の</sup>。一<sup>の</sup>。は<sup>の</sup>。家<sup>の</sup>。身<sup>の</sup>。の<sup>の</sup>。仕<sup>す</sup>。人<sup>を</sup>。

能<sup>く</sup>。一<sup>の</sup>。奴<sup>の</sup>。事<sup>を</sup>。乃<sup>の</sup>。あ<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。  
故<sup>の</sup>。と。身<sup>の</sup>。を。を。省<sup>す</sup>。一<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。  
我<sup>の</sup>。過<sup>す</sup>。ま<sup>の</sup>。た<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。  
一<sup>の</sup>。女<sup>の</sup>。能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。能<sup>く</sup>。一<sup>の</sup>。  
過<sup>す</sup>。ま<sup>の</sup>。阿<sup>の</sup>。一<sup>の</sup>。悔<sup>す</sup>。一<sup>の</sup>。ま<sup>の</sup>。

是色改女家方就  
責女之為人乃安  
未就責處之

女小學子讀此